

推薦する取り組み

園館名

カバを魅せたい～魅せる工夫と高齢カバのケア～

日立市かみね動物園

かみね動物園では2頭のメスのカバを飼育しています。1頭は現在国内最高齢53歳のバシャン。今までに計14頭の子どもを産んでおり全国にその血が受け継がれています。そして2頭目はバシャンが14番目に産んだ末娘のチャポン(平成3年生まれ)です。

カバ舎の施設は古いものの国内でも有数の広さを誇る展示場とプールを持ち、園のマスコットキャラクターもカバをモチーフにしたものですがお客様から聞かれるのは「くさい」「いつも水の中に入っている」「背中しか見えない」といった声。そこで、古い施設ながらカバ自身も楽しめてそんなカバを見てお客様にもカバの魅力を知ってもらえるように行ってきた工夫をここでは紹介します。

●「丸太レストラン」

まず、エサを食べる時以外は基本的に水の中で休んでいるカバ。そこでエサを与える回数を今まで朝の放飼時と夕方の入舎時2回だったのに加え昼間も外にエサをつけるようにしました。こうすることで運動不足になりがちな飼育下のカバに少しでも動いてもらえるようにします。

その際、展示場内に設置した大きな丸太に木の葉などを刺し食べてもらいます。カバのエサというと地面に置かれた草を引き寄せながら食べている様子が主ですが、「丸太レストラン」では丸太から引き抜き食べる様子が見られます。大きな体、大きな口で一瞬にして無くなってしまいう葉を見てお客様はカバのダイナミックなところを見る事ができます。

●「落ち葉レストラン」

9月下旬から12月にかけて展示場内に生えている大きなケヤキの落ち葉を食べる様子が見られます。陸に上がって食べる場所はもちろん、水底の落ち葉をすくって食べる「落ち葉サルベージ」も見られます。しばらく水中に隠れて見えなくなったかと思うと突然顔をあげ口いっぱい落ち葉を食べる様子にお客様からも「わーすごい！」といった声が多く聞かれます。担当者自身、カバがこのように水底のエサをすくい上げて食べることを知らなかったため、今まで知らなかった行動に驚きました。

これを受けて現在ではケヤキだけでなく園内で集めた落ち葉をカバの展示場に撒き、カサカサと音を立てながら豪快に食べる様子が見られます。カバたちも落ち葉を心待ちにしているようで落ち葉がたくさん入った袋を持っていくとそわそわします。

●「浮き草プール」

浮き草を育てて夏季はプールに浮かべています。野生下でも浮草の間から顔を出すカバが見られるので飼育下でもそんな様子を見せる事ができないかとやり始めた取り組みです。毎年ホテイアオイを育てており、食べる事はしないのですが引っ張って遊ぶような仕草を見せたり、浮き草を体の一部に付けたまま水から顔を出したり陸に上がったりするところが見られ来園者の興味・関心を引いていました。今年はホテイアオイに加え新たに2種の浮き草を育て浮かべてみる予定です。

これらはカバに楽しんでもらえるため、魅せるための工夫として現在まで行ってきたことであり、ブログやSNSでもこの取組を発信してきました。しかし、この矢先に国内最高齢のカバ「バシャン」は足腰が弱ってきたことと冬期間に発生したあかぎれが治らず、やむなく非展示にせざるを得ない状況に。そこで高齢カバのケアを考え、さらにお客様にもそれを見てもらえるようにしました。

●「室内プールのかさ上げ」

プールから陸に上がる階段の段差がきつそういため、室内プールのオーバーフローを閉じ、水量のかさ上げを行いました。こうする事で以前より浮力を使って上がりやすくなりました。

●「皮膚の治療」

冬期間の間のあかぎれがひどくなり外に出せなくなったため、獣医と相談して薬を塗布していくことに。しかし普段は水の中で過ごし薬を塗った後流れ落ちてしまうため、ワセリンを上からかぶせて塗るようにしました。全身に傷が広がっているため重ねづけを行うと時間はかかるのですが、バシャン自身も塗っている間じっとして協力してくれるので全身にくまなく塗る事ができるようになりました。

この様子は来園者も見ることが出来ます。毎日(現在は週2～3回)行っており、何をしているのか、高齢のためケアが必要な事、バシャンの特徴など様々なお話をしながら薬を塗っています。

痛々しい部分もありますが、HPや掲示などで告知も行い、高齢であるからこそ様々なケアを行い飼育していることを来園者に知ってもらえるようにしています。

現在はあかぎれも殆ど消えて、動きも良くなってきたので外に出す準備をしているところです。

●「敬老の日&誕生日会」

毎年バシヤンの誕生日と敬老の日は来園者と共にお祝いをしています。カバにまつわる〇×クイズ大会を行ってバシヤンの糞から作ったしおりをプレゼントしたり、おからを使ってケーキを一緒に作ったりと来園者に楽しんでもらえる企画を考えています。

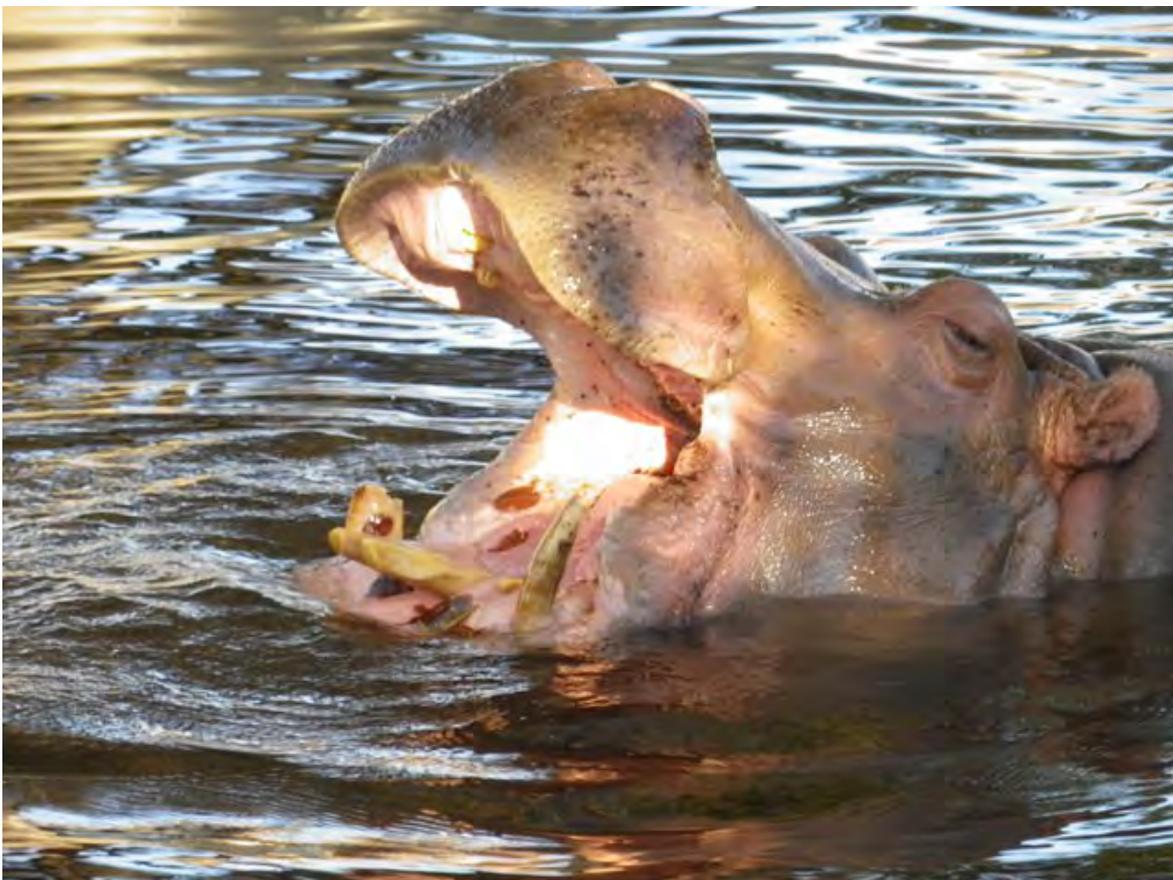
楽しみながらカバの事、高齢カバの生い立ちや今までの軌跡をお話して、次にカバを見た時に見方が少し変わってもらえたら、という想いで企画しています。

これらの取り組みで重要な事は来園者から見て「へえ〜」「すごい」「面白い」と言ってもらえるようこちらからもその取り組みを積極的に発信していくことです。

飼育業務の傍らで発信を行うというのは難しい面もあるのですが、飼育員が担当動物の事を知ってもらえるよう積極的に動くことは至極当然と思う昨今。

カバが昨日よりも楽しく暮らせるように、そしてより「魅せる」ためにエンリッチメントと発信を絶やすことなく続けていきます。





推薦する取り組み

園館名

カバの生活向上

日立市かみね動物園

推薦理由

映画『旭山動物園物語』では、今にも閉園という状況に追い込まれた古くて老朽化した「旭山動物園」という設定のロケ先になったのは、ここ「日立市かみね動物園」です。カバは、その古い施設に住んでいますが、日本最高齢の母親とその娘の2頭。

飼育担当者は、与えられた施設や設備の中で、動物のために何が出来るかを考えて実行しています。ただし、高齢のカバがいるので、あまり強い刺激がない方法を選んでいるようです。環境エンリッチメントは、年齢や個体に合わせて実行することが肝心だと、感じる事が出来るカバ舎でした。



ホテイアオイと戯れる



ホテイアオイで遊び、枯葉を口に入れる



推薦する取り組み

園館名

コツメカワウソのイキイキ計画

日立市かみね動物園

かみね動物園では、2013年からコツメカワウソの環境エンリッチメントとして「コツメカワウソのイキイキ計画」を行っています。

カワウソの展示場は昭和43年にウミウ舎として建設された施設に、手作りの寝室を設置したもので、広さが19.25㎡（内0.9㎡、外18.35㎡）と非常に狭い上に、築40年を超えているため、見た目も古めかしいです。

また、展示場の作りも単純で、カワウソの多様な行動を引き出すことはできていませんでした。そのため、カワウソは寝ている時間が多く、来園者からも「見えない」「動かない」「狭い」「かわいそう」と言った声が聞かれ、飼育環境としても、展示としても良いものとは言えませんでした。

そこで、生活しているカワウソもイキイキ、見ている来園者もイキイキ、仕掛け人の飼育員もイキイキ、を合言葉に本計画を実施しました。予算がない中で、アイデアで勝負し、できる限り低コストで行いました。

実施にあたり、以下の3点を大きな柱としました。

1、飼育環境の改善

給餌や展示場の見直しを行うことで、行動レパートリーの増加、運動不足解消など飼育環境の改善を行う

2、展示効果の向上

カワウソが活動的になることで、展示効果を向上させるとともに、特徴的な行動を引き出すことで、形態的特徴や能力について来園者の理解を深める。

3、動物園の取り組みや想いを発信

イキイキ計画をシリーズ化し、動物園ブログや展示場での掲示物によって、エンリッチメントという切り口から、動物園側がどのような姿勢で飼育管理に取り組み、何を伝えたいかを発信する。

実施した取り組みは以下のとおりです。

飼育環境の改善:飼) 展示効果の向上:展)

<給餌の改善>

これまでは解凍した魚をプールに投げ込むだけで、採食時間も短く運動量も多いとは言えませんでした。展示としても魚を食べている様子を見せているだけで、情報発信が不十分でした。そこで、給餌方法を見直すと共に、新たにおやつタイムとして時間を設定して、来園者が解説聞きながらエサを食べる様子を観察できるようにしました。

・イキイキ棒

竹の棒の先に魚をつけて泳がせる。

飼)運動量・採食時間の増加、泳いで魚を捕まえる行動を引き出す、体重計など意図した場所への誘導

展)泳いで獲物を追いかける姿を観察。動きをコントロールできるので水かきや犬歯など体の細部を観察

・イキイキ筒

穴をあけた竹筒に魚を入れる

飼)運動量・採食時間の増加、前肢を使って狭い隙間から餌を取り出す行動を引き出す

展)指先の器用さを観察

・イキイキカップ

ふた付プラスチックカップにペレットを入れてぶら下げる

飼)運動量・採食時間の増加

展)指先の器用さを観察

・イキキタッパー

透明の深いプラスチック容器に穴を開けて魚を入れる。イキキ筒だと餌が取れないとすぐに飽きてしまうが、中身が見えるため長時間挑戦するようになった。

飼)採食時間・運動量の増加、前肢を使って狭い隙間から餌を取り出す行動を引き出す

展)透明なので指先の使い方を観察

・イキキアイス(季節限定)

魚を氷付けにして与える

飼)採食時間・運動量の増加

展)氷漬けの餌を工夫しながら食べる様子を観察

・イキキめし(季節限定)

餌の内容をアジとワカサギに、夏の企画展で使用したザリガニを加えた

飼)餌のバリエーションの増加

展)甲殻類を殻ごと食べる行動を観察

<展示場の改善>

これまでコンクリートの単純な展示場に木組みのアスレチック、消防ホースのハンモックが設置されているだけでした。退屈なため寝ていることが多く、遊びのバリエーションも多くありませんでした。また、木をかじって食べる悪癖も見られ、やめさせるためにも展示場に遊具を設置しました。

・イキキ岩場

プール内に園内の工事で出た岩を入れて岩場を作った

飼)探索行動が見られるようになった

展)岩の隙間をくまなく探して泳ぐ姿を観察。

・イキキダート

容器に土を入れて展示場に設置

飼)穴掘り、探索行動が見られるようになった

展)カワウソが土を使って遊ぶ姿を観察。

・イキキボーン

犬用のガム(牛皮)を展示場内に設置

飼)展示場の木や麻袋をかじる癖があったが、木をかじる頻度は減少した

展)歯の鋭さ、かじる様子を観察

以上のように給餌・展示場の見直しを行った結果、採食時間・運動量・行動レパートリーの増加、悪癖の減少など飼育環境の改善に繋がりました。それに伴い、様々な行動を取るカワウソが見られるようになったことで「つまらない」「かわいそう」といったマイナスの声は驚くほど減りました。

また、この取り組みをシリーズ化して、園内掲示及び動物園ブログで情報発信することによって、カワウソを目的に来園される方も出始め、「次はどんなことをするのですか」と楽しみにしてもらうまでになりました。

今後の展望としては、イキキ計画のアイデアを一般の方から募集し、来園者と作るエンリッチメントを計画しています。そして、エンリッチメントの理解を深めるとともに、動物の幸せを来園者と一緒に考えられる環境づくりを行っていきたいと考えています。

過去のブログ

<http://www.city.hitachi.lg.jp/zoo/blog/staff/nakamoto/blog201605.html>

<http://www.city.hitachi.lg.jp/zoo/blog/staff/nakamoto/blog201603.html>



イキイめしのザリガニを殻ごと食べる



イキイダートで顔を泥だらけにする



イキイキボンとイキイキカップ



イキイキ棒を使ってカウウソの解説



展示場に掲示して情報発信

推薦する取り組み

園館名

カワウソのイキイキ計画

日立市かみね動物園

日立市かみね動物園のHPに以下の内容が掲載されています。コツメカワウソのフィーダー作りのアイデアを一般に呼びかけるものです。来園者、お客さんが参加する環境エンリッチメントが素晴らしい！



題して「みんなで作る！コツメカワウソのイキイキ計画」

これまでは私が考えたものを設置していましたが、その12からはみなさまに考えていただきたいと思います！

ただし、何でもかんでも実行できるということにはならないことはご了承ください。

計画

では、ルール説明です！

1、コツメカワウソについてよ～く調べて下さい

→その動物を知らなければイキイキさせることはできません。どこに生息していて、何を食べて、どんな生活をしているのかなどを調べるのが大切です！

2、カワウソにとって危険はないか

→動物に危険があつてはいけません。かじる、たべるも考慮してください。

3、安価で簡単に作れるか

→基本は手作りです。壊されることを前提に簡単に作れて、更新しやすいものが好ましいです。

4、カワウソについて間違ったメッセージを発信しないか

→寒そうだからカワイイ服を着せてあげよう、なんてのは論外！彼らをキャラクターにしてしまうのはNGです。

以上の4つのルールをもとに色々考えてみて下さい。

採用された方には素敵な記念品を差し上げます！

なお、イキイキ計画採用のお知らせは記念品の発送をもって変えさせていただきます。

応募方法は、下記のwordファイルをダウンロードして、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、メール又は郵送で送って下さい。手渡しでももちろんOKです！

なお、今回の締め切りはとりあえず7月末とさせていただきます。

「コツメカワウソのイキイキ計画」計画書(ワード形式:186KB)

※用紙を横向きで作成していますので、縦向きですれて表記される場合は用紙の設定を行ってください。

日立市かみね動物園 イキイキ計画係

住所: 〒317-0055 茨城県日立市宮田町 5丁目 2-22

kaminezoo@city.hitachi.lg.jp

飼育員にとって動物のために何ができるか考えることはとても楽しい仕事です。彼らは仕掛けに対して様々な反応を見せてくれます。イキイキとした姿を見せてくれた時の喜びは一人です。

「動物園の動物は幸せですか」という質問を受けることがありますが、その答えは正直わかりません。

幸せかどうかは本人のみぞ知ることで、わたしたち人間はそれを幸せそうだとかそうじゃないとか想像することしかできません。その価値観も人それぞれです。

でも、人間の都合で動物を飼育している以上、少しでも幸せに生活できるように考え、努力する責任があると思います。だからこそ、この答えのない問いをイキイキ計画を通して、みなさんと一緒に考えていければと思っています。

しあわせ

たくさんのご応募お待ちしております！！

イキイキ計画は今後も続く・・・。

たまにカワウソ担当 中本

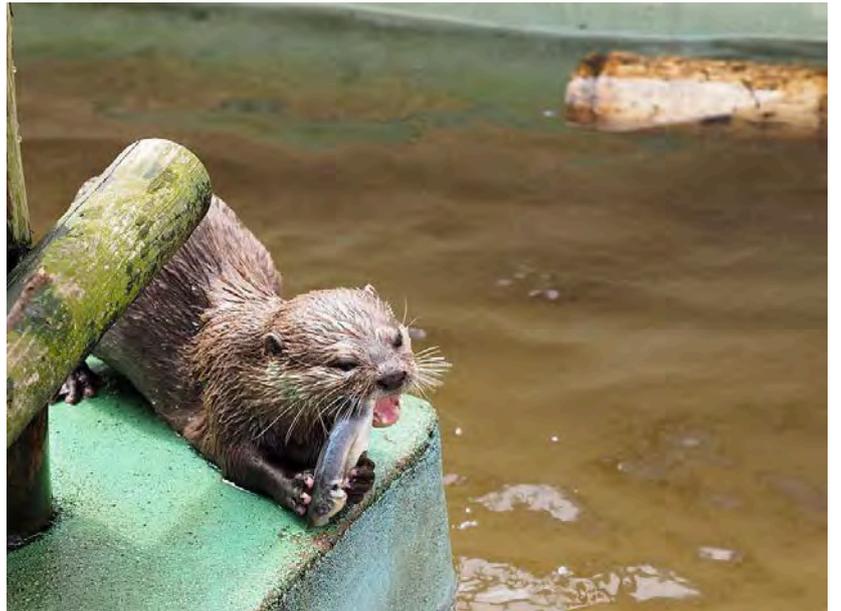
<http://www.city.hitachi.lg.jp/zoo/blog/staff/nakamoto/p052598.html>



飼育担当者が作った フィーダー (かみね動物園HPより)



竹のフィーダーから魚をつかみ出す



竹フィーダーからの魚をかかえて、水からあがってムシャムシャ

推薦する取り組み

園館名

カピバラのための緑化計画

日立市かみね動物園

推薦理由

飼育している面積には、限りがあるもの。狭い運動場では、草を植えてもカピバラたちがパクパク食べてしまって、地面が見える状態になってしまいます。そこで、ある時期は、カピバラの立ち入りを禁止して緑地を育成しようという試み。緑の草がある場所では、カピバラたちの行動が多様化するの間違いありません。こういう緑地を園内に増やしていく、草がある状態を維持できることを願っております。



左奥が緑化中の敷地



右奥がカピバラの現在の運動場

